

2023 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生情報ビジネス専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生情報ビジネス専門学校の2023年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2024年 1月31日

校 長 瀧口 博俊

自己点検・評価責任者

校長代行 北原 聡

目 次

I 教育理念・教育目標(育成人材像).....	- 3 -
II 重点項目.....	- 6 -
III 基準項目 自己点検・評価.....	- 7 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像.....	- 7 -
基準 2 学校運営.....	- 8 -
基準 3 教育活動.....	- 13 -
基準 4 学修成果.....	- 19 -
基準 5 学生支援.....	- 21 -
基準 6 教育環境.....	- 23 -
基準 7 学生募集.....	- 25 -
基準 8 財務.....	- 26 -
基準 9 法令遵守.....	- 27 -
基準10 内部質保証.....	- 28 -
基準11 社会貢献・地域貢献.....	- 29 -

評価結果

S:適切

A:ほぼ適切

B:やや不適切

C:不適切

I 教育理念・教育目標(育成人材像)

法人の教育理念

専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります。

本校の教育理念

1. 変化する情報化社会において、体系だった幅広い知識と専門分野の高い技術を持った社会人を育成します。
2. 知識や技術を最大限に発揮するための「人間力」を高めるために、思いやりと自立心を育成します。
3. 豊かな人間性と社会で必要とされる知識・技術を備えた人材を育成し、社会の発展に寄与します。

教育目標(育成人材像)

情報工学科

【高度ITシステム専攻】

プログラマ実践力、システムの設計能力、エンジニアとして必要なコミュニケーションスキルに加え、IT サービスの企画提案ができるエンジニアを育成する。

【高度ネットワーク・セキュリティ専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた大規模な IT インフラストラクチャの設計、構築、運用技術を修得すると共に、企業で必要となるセキュリティ技術を修得する。

さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

【AI&IoT専攻】

AIを適用した実用的な IoT システムの企画から構築、効果検証を行う技術を修得する。

画像や音声、言語及び各種センサーからのデータを解釈して動作に活用する一連のシステムを開発できるエンジニアを育成する。

【電子システム工学専攻】

ハードウェアとソフトウェアを適切に組み合わせた高信頼性システムの企画から構築までをチームで行う知識と技術を修得し、車載ソフトウェアやロボット制御の開発に対応できる組み込みシステムエンジニアを育成する。

情報システム専攻科

【システムエンジニア専攻】

プログラマ実践力に加えて、システムの設計、構築ができ、お客様やチーム内エンジニアとの仕事において必要なコミュニケーションスキルを持ったエンジニアを育成する。

【ネットワークエンジニア専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた IT インフラストラクチャの設計、構築、運用技術を修得する。
さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

【AIエンジニア専攻】

IoT 環境の構成要素を理解し、AI システムの実装方法を修得する。画像や音声、言語の認識技術を活用するとともに、機器の制御ソフトウェアを開発できるエンジニアを 育成する。

情報システム科

【プログラミング専攻】

プログラマとしての実践力とチーム開発で必要となるコミュニケーションスキルを持ったエンジニアを育成する。

【ネットワーク専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた IT インフラストラクチャの構築、運用技術を修得する。
さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

【AIプログラミング専攻】

AI の種類や特徴、及び適用領域の知識を持ち、機械学習を中心とした AI の仕組みを理解し、AI システムのプログラミングができるエンジニアを育成する。

国際ITエンジニア科

知識のみならず運用力の伴った日本語力を身に付けるとともに、日本企業で求められるビジネスコミュニケーションスキルを身に付けることで、日本国内外におけるITシステムを活用した業務の効率化とITシステムの開発に貢献できる人材を育成する。

ビジネスエキスパート科

企業内で一般的に使用されているパソコンのソフトウェアを全般的に使いこなし、指導・教育担当者として必要なプレゼンテーション、インストラクション、コミュニケーション能力を身に付けることで、社会で情報活用のリーダーシップを発揮することができる人材を育成する。

情報ビジネス科

Microsoft 社の Office 製品を総合的に使いこなし、事務処理の効率化を図るとともに、効果的プレゼンテーションが出来るスキルを身に付ける。さらに、社会人としてのマナーを備え、即戦力して対応できる人材を育成する。

経営ビジネス科

IT・経営・データ分析に関する知識を総合的に習得することで、経営的な視点にたって、社会や企業の課題解決を行えるゼネラリストおよび将来的に起業もできる人材を育成する。

経理科

情報化が進むビジネス社会で生き抜くために必要な簿記・会計・税法に関する専門的な知識をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力を養い、即戦力として幅広く活躍できる人材を育成する。

国際ビジネス科

知識のみならず運用力の伴った日本語力とともに、日本企業で求められるビジネスコミュニケーションスキルを身に付け、日本国内外で活用できる人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

教育内容の積極的な発信や社会貢献のために、高校連携を強化する。

2. 取組み状況

(下記は 2023 年 4 月から 2023 年 12 月の実績)

教員向けセミナー

下記のセミナーを開催した。

高校教員向けセミナー 5講座 41校 49名参加 (昨年比 +1講座)

高校生向けコンテスト

下記のコンテストを開催した。

第6回高校生プログラミングコンテスト(11校 66名参加) (昨年比 +1校 +18名)

第2回高校生ビジネススキルコンテスト(7校 88名参加) (2019年比 -2校 +62名)

来校、出張授業

下記の来校、出張授業を実施した。

高校来校授業 22校 37講座 (昨年比 ±0校 +9講座)

高校出張授業 25校 26講座 (昨年比 +4校 +4講座)

中学校出張授業 1校 1講座 (昨年比 +1校 +1講座)

3. 総括(成果と課題)

2023年年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ5類感染症に変更されたため、本校も高等学校も、コロナ禍以前の活動状況に戻って来た。そのため、教員向けセミナー、高校来校授業、高校出張授業のいずれも高校側からの希望が増え、昨年度以上に多くの参加者があった。

また、高校生プログラミングコンテストは、コロナ禍となった2020年から、本校と各高校をオンラインで結んで開催しており、今年も同様の方法で開催したが、沖縄や鹿児島等、遠隔地の高校を含む11校から66名という多くの参加者があった。

高校生ビジネスコンテスト(タイピング)は、2019年に、本校において対面で実施した後、コロナ禍のため実施を見送って来たが、今年は、本校と各高校をオンラインで結ぶ形で開催した。その結果、2019年時の3倍強の参加者があった。

今後は、在校生の教育に影響を与えない範囲で、いかに多くの希望に応えていくということが課題である。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

法人の教育理念は明文化し、麻生専門学校グループのホームページにて公表している。本校の教育理念や目的および育成人材像は、法人の理念を基に展開しており、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表している。また、これらは学生便覧に掲載し、教職員および学生に周知するとともに、学生に対しては、入学直後に新入生全員が集合してのオリエンテーションを実施して周知した。さらに、GCB教育(グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)を通して、麻生塾の学生としてふさわしい態度や考えの指導に取り組んでいる。

新しい教職員が増えている中で、教育理念を教職員にしっかり浸透させるため、年度初めに、学生便覧(教育理念等)の読み合わせを行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====
基準 2 学校運営
=====

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

学校の教育理念に沿った運営方針を策定し、説明用の資料を作成した。

2023年3月3日(金)に麻生情報ビジネス専門学校の2023年度キックオフミーティングを開催し、上記の資料を用いて、全教職員に運営方針の説明を行った。

なお、学校を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、運営方針が学校を取り巻く状況に対応できていないと判断した場合は、年度途中であっても、運営方針の修正、変更を検討する。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

運営方針に沿った事業計画を策定し、学校のサーバーに保存して共有している。

事業計画の執行状況は、毎月の経営会議用の資料で管理し、週1回のリーダー会議や月1回の教務会議(全教職員が参加)において、状況の共有および対策の検討を行っている。

なお、会議や朝礼は、今年度は基本的には対面で行い密なコミュニケーションを図っているが、テレワーク等の人のために Teams の会議を起動した状態で行い、情報の共有漏れを防いでいる。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を毎月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が合議・情報共有を行う部門長会議など各階層別に必要な会議体が設計され、毎月開催されている。

麻生情報ビジネス専門学校においては、授業、クラス運営等、日常の業務は、カテゴリー(分野)ごとのグループに分かれ、管理職やリーダー、サブリーダーを中心に運営を行っている。各グループは週に1回のグループ会議を開催している。

管理職やリーダー、サブリーダーは、校長代行と主任が開催する週に1回のリーダー会議に参加し、現状の共有や対策の協議を行っている。

また、校長代行と主任は、月に1回、全教職員を対象とし、情報共有を主目的とした教務会議も開催している。

本校には事務長と教務事務が配置されており、学生の就職支援や予算の管理等を行っている。事務長と教務事務は、企業との面談等によって知識、情報を得るだけでなく、計画的に研修にも参加している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的で開催されているか。	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書は法令を遵守し整備されている。

また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程の更新を実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。

なお、2024年度の人事制度改正に向け新制度設計の整備が完了し、学校法人麻生塾人事グループが新制度内容の変更点周知に併せ既存制度の再理解を図るよう活動をすすめている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

学生の学籍、成績、就職等、入学前から卒業までトータルに情報を管理、共有するための情報システムとして、「麻生塾システム」という学校法人麻生塾独自の情報システムを利用している。この情報システムは、教務だけではなく、学校法人麻生塾の全部門が使用しており、情報の共有化や一元化が図られている。

また、オンライン授業や、学生と教員、教職員どうしのコミュニケーションのツールとして、Microsoft Teams を利用し、オンライン授業においても、対面授業と同等の教育効果をあげている。

麻生情報ビジネス専門学校単独でも、Microsoft Teams 上の仕組みを活用して、授業アンケートの自動化、学生や教職員へメールを一斉発送するためのメーリングリストの作成、出席状況を全学生へ知らせるメールやチャットの自動化等に取り組み、業務の効率化を図っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	S

=====
基準 3 教育活動
=====

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った3つのポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)を定め、学生便覧に掲載することによって、教職員および学生に周知している。また、これらは、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページに掲載し、社会に公表している。

カリキュラムをはじめとした教育課程全般の検証のために、教育課程編成委員会を、年に2回実施した。教育課程編成委員会にて頂いたご意見は、カリキュラム会議で協議した後、カリキュラムに反映させている。

また、3つのポリシーも、教育課程編成委員会におけるご意見等を参考に、リーダー会議で協議し、必要に応じて修正・変更を行う。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

カリキュラムは、教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程編成委員会における意見を踏まえ、カリキュラム会議で検討し更新している。実践的な職業教育の視点に立った教育内容が提供できているかを確認するため、一般社団法人iCD協会が提供しているiコンピテンシ デクシヨナリ(企業において IT を利活用するビジネスに求められる業務と、それを支える IT 人材の能力や素養を体系化したもの)に基づく学生アンケートも実施している。具体的には、年度初めと年度末に実施したアンケート結果を学科・学年ごとに集計し、項目毎の教育効果を確認している。科目毎のコマシラバスも毎年更新し、教師間で共有し、各シラバスに実施状況の記録を残すことで整合性の確認を行っている。

キャリア教育は、就職実務やGCB教育(グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)等の授業、企業講演会やインターンシップ等により、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の習得・育成を促している。

【課題及びその改善方策】

業界のニーズを踏まえた教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なえているが、目指す業界という明確な目的がないまま入学して来る学生や、不登校などにより学習習慣のない学生が増えている中で、業界のニーズに添った教育内容や実践的な職業教育と、それらの学生との間に大きなギャップが生じている。
→ 業界のニーズや意見に加え、学生側のニーズや意見を吸い上げることによって、入学して来る学生の大多数が成長できるような教育課程・教育内容を構築する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S

3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

授業の評価については、学校法人麻生塾教育推進グループ(以下「教育推進グループ」という。)が事務局となり、管理職、リーダーが主体となって、前期終盤と後期終盤に授業アンケートを実施している。また、より短い周期で改善を図るため、授業ごとに、「授業のスピード」等の簡単な数項目のアンケートを、1週間に1度程度、Microsoft Teams 上の Forms により実施している。

模範となる授業は、録画して教職員の共有フォルダーに置き、全教職員がいつでも参考に見られるようにしている。

オンライン授業や、ブレンド型授業などについては、教員間で情報共有したり、動画教材を共有したりすることにより、日々改善を図っている。

【課題及びその改善方策】

教育の評価は適切に行い、その結果に基づく授業内容・授業方法の改善も行えているが、教育の質をさらに高めるためには、教員が授業内容・授業方法の改善を図るために使える時間を増やす必要がある。

→ 他部門を含めた法人全体で、教員の業務負荷(特に事務作業や雑務)を軽減し、授業内容・授業方法の改善を図るための時間を十分に確保できるようにする。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	S
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価、単位認定、進級・卒業判定については、学則及び各規程を定め、学生便覧に記載することにより、学生、教職員に周知している。また、各科目の評価基準については、シラバスに記載し、学生、教職員に周知している。これらに基づき、成績評価を適切に行っている。

成績表については、複数教員でダブルチェックを行い、評価、入力に間違いのないようにしている。

進級判定、卒業判定については、学校法人麻生塾福岡キャンパスの校長、校長代行による進級判定会議、卒業判定会議において決定している。

【課題及びその改善方策】

コロナ禍は落ち着きを見せており、現時点では問題ないが、健康上の問題で登校できない学生等への対応のために、オンラインでも実施可能な評価方法の確立は必要である。

→ 継続して検討する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

法令に則り、かつ学校の教育理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮した上で、必要な教員組織を構築している。教員採用時には複数回の面接及び模擬授業を実施し採否の判断を行っている。採用後も指導担当者(チューター)を配置してOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング、実際の職場で実務を通して学ぶ訓練)を行うことにより、指導力の向上、組織への順応を促している。

授業、クラス運営等、日常の業務は、カテゴリー(分野)ごとのグループに分かれ、管理職やリーダーを中心に運営を行っている。そのグループ内や学校全体で、資質向上のための情報共有や人材の育成を行っており、企業等が実施する、専門分野の実務能力や学生に対する指導力を向上させるための研修には、計画的かつ積極的に参加させている。

【課題及びその改善方策】

教育体制の整備や教員の資質向上の取り組みはしっかり行えているが、教育の質をさらに高めるためには、教員が研修や研究に充てる時間を増やす必要がある。

→ 他部門を含めた法人全体で、教員の業務負荷(特に事務作業や雑務)の軽減を行い、研修や研究に充てられる時間を確保し、教員が積極的に研修に参加したり研究したりできるようにする。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S

=====
基準 4 学修成果
=====

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

就職については、就職担当職員と就職年次の担任が、毎週、就職部会を開催し、求人情報や学生情報の共有を行い、必要に応じて就職活動の推進策を協議している。また、週に1回のリーダー会議や月に1回の教務会議でも就職率や就職者の割合の共有を行い、それらの向上策を協議している。

資格・検定については、週に1回のグループ会議を中心に、取得率の向上策を検討して実施するとともに、次年度に向けてはカリキュラム会議でカリキュラムやシラバスに向上策を織り込んでいる。

退学防止については、クラス担任が学生の日常のケアを行い、出席率低下等、退学の兆候の見える学生については、グループ会議やリーダー会議で対策を協議し、リーダーや管理職が担任に協力して退学防止策を講じている。

学生の良い面に着目した、出席不良や退学の対策として、前期末、後期末に、その半期が皆勤であった学生を表彰するという試みを行った。また、毎週末、全学生に出席状況を知らせるメールまたはチャットを送る試みも始めた。そこでは、出席状況が悪い学生に注意するだけでなく、出席状況の良い学生を褒める言葉を添えるようにした。これらの試みの評価はこれからだが、学生の良い面に着目するという方向性は継続したい。

【課題及びその改善方策】

教育活動や、その改善活動は、しっかり行っているが、コロナ禍の下で高校時代を送ってきた学生がほとんどになっていることや、高校までに不登校を経験した学生が多くなっているためか、就職、資格取得、退学のいずれも、これまでの対応策が通用しない場合が増えている。

→ 結果の数字だけを追って、それに対する対策を立てるのではなく、学生そのものに着目して、入学前からの動機付けや行きたい学校づくりなど、本質的な部分に着目した対策をより強化して行く。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	S

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

企業における卒業生の状況や、企業が学校の教育活動に求めていることについては、就職担当職員が企業から聞き取り、就職部会やリーダー会議等において、教員に共有している。また、教員が就職担当職員に同行し、企業から直接ご意見を伺うこともある。

また、本校は卒業生の内定先企業にアンケートを実施し、企業への貢献度や、「資質」や「技術・資格・能力」について優れている点・不足している点の把握をしている。

卒業生の就業状況については、学校法人麻生塾就職グループ(以下「就職グループ」という。)が、企業にアンケートを実施し、1年以内離職率と3年以内離職率を調査している。

【課題及びその改善方策】

アンケート結果の共有、活用が十分ではない。

→ 集計の区切りをつける期日を決めておき、確実に本校教職員全員に共有するようにする。また、その結果をカリキュラム会議等で活用する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	A

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

麻生専門学校グループには、グループ各校をサポートする、学校法人麻生塾学生支援グループ(以下「学生支援グループ」という。)、就職グループ等が設置されており、各校の教職員と共に、留学生を含む全学生の修学支援、生活支援、進路支援を行っている。

担任教員は、学生や保護者等との面談を適宜行っており、必要に応じて管理職等も同席している。また、面談の内容は、麻生塾システムの中に記録し、法人全体で共有している。教員以外の相談先として、学校法人麻生塾学生相談室(以下「学生相談室」という。)があり、公認心理師であるカウンセラーや専任の職員が相談に当たっている。

留学生や障がい者も受け入れており、即戦力としての人材育成指導を行いつつ、外部団体(就労支援団体等)とも連携して就職までの指導支援を行っている。

経済的支援としては、特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び無償化認定等、各種支援制度を準備し多くの学生が活用している。

就職支援に関しては、キャリアサポートセンターを設置し、専門職員による就職指導を行っている。企業インターンシップにも積極的に参加できるよう情報を提供し、参加を促している。また、卒業生に関しては再就職の相談や斡旋を行う専用のサイト「ASO 卒業生キャリア支援 CONNECT」を就職推進グループが中心となり運用している。

学生の課外活動支援では、学内の部活動として、野球、テニス、サッカー、バスケットボール等が各種大会上位を目指して活動している。

生活環境への支援において、直営寮・提携寮を完備しており、寮監を配置し、定期的に学生の様子を報告してもらう仕組みを構築している。

健康管理の面においては、健康診断を年1回実施。結核予防の観点から、留学生の胸部X線検査を入学前に実施して早期発見を目指している。また、精神面での学生が安心して学校生活を送ることができるように取り組んだ。

【課題及びその改善方策】

学生に対する支援組織体制は整備できているが、それでも教員は精神的不安を抱える学生の対応に苦慮している。
→ 学生相談室との連携を強化する。また、勉強会を開催したり研修に参加させたりすることにより、そのような学生に対する対応力の高い教職員を育成する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	評価除外
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者)をいう。

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

施設、設備については設置基準を遵守し、かつ教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育に必要なものを整備しており、適正に管理している。設備整備に関しては学校法人麻生塾業務推進グループ(以下「業務推進グループ」という。)と連携し、年度毎に教室見直し及び設備の補充・修繕を行い環境の維持に努めている。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、総合図書館を設置している。総合図書館では、規程やルールを定め学生便覧に掲載すると共に、教室内へ利用案内を掲示する等、学生への周知を図っている。また、固定資産管理規程に基づき、図書や書籍を含む資料類は適切に管理している。

【課題及びその改善方策】

教室や机の広さは、設置基準は満たしており、教育運営に支障はないものの、PC 等を用いて学習するには余裕はない。

→ 学習環境の変化に合わせて、中長期的な視点で、快適に学習できる環境を整えて行く。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

インターンシップ(学外実習)時には条件記載の文書を基に、誓約書の作成を義務化している。インターンシップ(学外実習)実施前には、事前教育のためのマニュアルを整備し安全管理を含めた指導を行っている。

安全対策に関しては防災、防犯設備の点検や避難経路の掲示、防災訓練を実施し、教員への周知徹底を図るとともに、学生の登下校及び学校生活における事故に備えて、保険の加入を義務化している。また、災害発生時や感染症発症時の緊急連絡網も整備し、運用している。

2023年11月2日に、学校から近隣の公園までの避難訓練を実施した。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S
6-2-3	定期的に防災訓練を実施しているか。	S

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)を策定し、募集要項に記載すると共に、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表して、受験者に周知している。また、学生便覧にも記載し、学生および教職員に周知している。

就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果は、パンフレットやホームページに正確に記載し、社会に公表している。

学生募集については学校法人麻生塾広報グループ(以下広報グループという。)を中心に、教務や就職グループも加わって、アドミッション・ポリシー(入学者の受け入れ方針)に基づいた、オープンキャンパス等の募集活動を適切に行っている。

入学者選抜については、学生支援グループと広報グループを中心に、教務や就職グループも加わって、アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜を、入試実施マニュアルに沿って公正かつ適切に行っている。また、感染症拡大の懸念から、オンラインと来校による実施体制を整えており、運用に関するノウハウを Microsoft Team で共有することで、公正かつ適切に入学試験を実施できている。

校納金については、適切な授業料や入学金等の設定を行っている。教材費については、各学科のカリキュラムに合致した教材等を教務で協議し、妥当性、透明性を確認して決定している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S

=====
基準 8 財務
=====

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。

学校の管理、運営体制については、学校法人麻生塾経営企画グループと学校法人麻生塾経理グループが中心となり、予算計画を作成している。また、学校年度収支については、月次での予実管理を実施し、収支バランスの管理を行っている。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令、専修学校設置基準については、業務推進グループ(法務担当)、教育推進グループ等と協議し、職業実践専門課程及び文部科学省専門課程認定校の基準と併せ遵守している。また、校地・校舎・講義室・実習室等の面積についても同様の取り組みを行っている。その他の法令の遵守については、業務推進グループの支援を受け、想定されるリスクやその対応方法等を法人全体と共有している。

関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程は業務推進グループ(法務担当)、教育推進グループ等と協力して整備しており、電子文書および印刷物によって教職員に共有し、適切に運用している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

=====
基準10 内部質保証
=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

学校教育、学校運営について、Microsoft Teams 上の Forms を利用して、全教職員で自己点検・評価を実施している。その結果を踏まえて、組織的に改善に取り組んでいる。

また、職業実践専門課程の基準を基に、学校関係者評価委員会を開催し、教育に関する検証を行っている。

2023年度は7月5日に、2022年度の学校運営に関する評価をしていただいた。指摘事項については随時改善に取り組み、評価委員へ報告を行っている。評価結果は、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====
基準11 社会貢献・地域貢献
=====

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学校の教育資源である教員や施設を活用することにより、高校教員向けセミナー、高校生向けコンテスト、高校や中学校を対象とした出張型や来校型の授業を実施している。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ5類感染症に変更されたこともあり、今年度はいずれも数多く実施できた。

学生のボランティア活動は、学校周辺地域の清掃を「ちょボラ」と称して学生を募集し、月に1回ずつ実施している。また、留学生会(麻生専門学校グループの一部の学校に所属する留学生で構成する会)が主催して実施した学校周辺地域の清掃活動にも、本校の留学生が参加した。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S